

局長年頭あいさつ



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



謹賀新年

新年のご挨拶

近畿中国森林管理局長 長田 朋二



新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては新年を迎え、ますます御清祥のことと心よりお慶び申し上げます。

さて、我が国では、戦後造林された人工林を中心に本格的な利用期を迎えており、この豊富な森林資源の伐採・利用を進め、伐採後の計画的な再造林を推進することによって、資源の循環を確実なものにしていくことが重要となっています。

国有林野事業では、公益重視の管理経営を一層強化するため、一貫作業システムの推進や効果的な路網の整備を行うことで施業の集約化・低コスト化を進めるとともに、施業によって得られる木材を製材工場等との協定により安定的に供給する「システム販売」や隣接する民有林と連携して効率的な森林づくりや民有林との木材の協調出荷を行う「森林共同施業団地」の設定を進めています。

また、近年の台風や集中豪雨等による自然災害に対しては、地域の安全・安心を確保するため被災地の早急な復旧はもとより、治山事業等による減災対策の推進に取り組んでいるところです。

このような中、昨年4月から適切な経営管理が行われていない森林について、森林所有者の意向を確認した上で、林業経営に適した森林は意欲と能力のある林業経営者に経営管理を委託し、経済ベースにのらない森林については所有者から委託を受けた市町村が適切な管理を行う「森林経営管理制度」がスタートするとともに、市町村の森林保全の活動等に充てることを目的とした「森林環境譲与税」の譲与が開始されました。

さらに、「森林経営管理制度」を後押しするため、意欲と能力のある林業経営者等に、公益的機能を維持しつつ、国有林野の一定の区域において、一定期間・安定的に樹木を採取できる権利を与える制度が創設され、令和2年4月1日からの運用開始に向けて準備を進めているところです。この制度によって長期に事業量が見通せることで機械導入や地域の雇用が進展することを期待しています。

加えて、閣議決定された「成長戦略2019」において、スマート林業の推進、生産流通構造の改革、中高層建築物や非住宅への利用拡大等による木材需要の拡大等に取り組むこととしています。

近畿中国森林管理局としましても、民有林との連携の強化、木材の安定供給、林業の低コスト化、シカ被害対策などを通じて地域の林業・木材産業の成長産業化に貢献してまいりますので、より一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、新しい年が皆様にとって健康で実り多い年となりますよう御祈念申し上げ、新年の御挨拶と致します。



多様な生物を育む「緑の回廊」

— 緑眩しい白山山系を訪ねて（石川県白山市） — 【計画課】

【白山山系緑の回廊】



【メボソムシクイ】



【アキアカネ】



【ハクサンシクナゲ】

「白山山系緑の回廊」には、火山活動の荒々しい痕跡、夏山を彩る高山植物のお花畑、山麓に広がるブナの原生林、これらの多様な環境に生息するさまざまな野生動物など、原生的な自然が残されています。

【ホシガラス】



〔 亜高山～高山帯の針葉樹林に生息するカラスの仲間 〕

【オオシラビソと球果】

～ 白山山系緑の回廊を登山道から見る～

夏山シーズン本番を迎えた8月初め、管内最高峰の白山（標高2,702m）を訪ねてみました。

登山道を歩いていると、「ガァー、ガァー」という大きな鳴き声。声の主を探してみると・・・いました、いました。オオシラビソのてっぺんに留まっているのはホシガラスです。

ホシガラスはオオシラビソやハイマツなどの球果（松の実）や、ブナやミズナラなどの堅果（ドングリ）を好んで食べ、餌の少ない時期を生き抜くため、これらの種子を土中に埋めて貯えておく習性（貯食）があります。

彼らは埋めた場所をよく覚えているようですが、一部の種子は掘り忘れてしまい、翌春に芽を出し、長い年月の間にやがて森となっていきます。自ら移動することのできない樹木が生育場所を広げていくためには、ホシガラスのような種子散布者の存在はとても重要です。植物と動物はいろいろな形で共に関わり合いながら進化してきたと考えられ、「緑の回廊」の目的としている生物多様性保全を考える上でとても大切な視点と言えます。



〔ツキノワグマの痕跡
(足跡と糞)〕



登山道をさらに進んでいると、今度は何やら怪しげな痕跡が…、クマさんの残していったモノでした。(汗)

ツキノワグマは、森林生態系の頂点に位置し、生きていくためには広大な自然環境を必要とします。

このため、ツキノワグマの生息状況が彼らの生活している生態系、つまり、白山の自然環境が健全に保たれているかどうかを判断する上で一つの指標になると考えられます。こうした動物はアンブレラ種と呼ばれることもあり、生物多様性保全の取組を進めていく上で重要な生物種となります。

白山は高山帯を有する山岳としては最も西にあり、早くから植物研究が進んだことから、ハクサンフウロやゴゼンタチバナといった白山に由来を持つ高山植物がたくさんあります。また、日本有数の花の山としても知られ、今回の登山でもあちらこちらで美しい花々を見ることができました。皆さんもぜひ「緑の回廊」に足を運んでみては！

〔生態系保全係長 的場香奈〕



【ハクサンゴザクラ】



【ハクサンフウロ】



【クロユリ】

— 緑の回廊ってなに？ —

【緑の回廊のイメージ図】



国有林内には希少な樹木などの生育・生息地が数多くあり、保護林として厳正に管理しています。「緑の回廊」は、保護林とその周囲の森林を広域的な生態系ネットワークとして捉え、生物多様性をより効果的に保全しようとする取組です。



「緑の回廊」は、全国に24箇所あり、当局の管内では、「白山山系」「越美山地」「東中国山地」の3箇所に設定しています。

令和元年度 第3回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催

【森林整備部 資源活用課】

令和元年12月12日（木）に第3回国有林材供給調整検討委員会を開催しました。



この委員会は、木材価格急変時に国有林野が持つ供給調整機能を発揮させるため設置し、国有林材の供給調整の必要性、供給調整を実施する際の方法等について、学識経験者、森林林業関係者、木材産業関係者からご意見をいただくもので、四半期に1回開催しています。

委員会では、事務局から局管内の木材需給動向等の分析結果を説明した後、各委員から所属する機関・関連業界の情勢等の現況報告により、国有林材の供給調整の必要性等について検討を行った結果、「供給調整の必要性はみとめられない」との意見がまとめられました。

検討結果の概要については、当局ホームページで公表します。

「スギ・ヒノキ花粉削減対策シンポジウム2019」の開催

【森林整備部 森林整備課】



約140名の参加で満員状態の会場の様子



開催の挨拶をする長田局長

令和元年12月21日（土）、（一社）全国林業改良普及協会との共催により「スギ・ヒノキ花粉削減対策シンポジウム2019」を大阪市都島区で開催しました。

近年、我が国では国民の3割が花粉症に悩まされており、国民病とも言われる花粉症への対策が課題となっています。

シンポジウムでは、こうしたスギ・ヒノキの花粉をいかに削減していくのかといった観点から、行政機関や民間企業での取組をはじめ、花粉の飛散予測、あるいは医療面から花粉症の予防や治療に関する話題など、幅広い分野で活躍する8名の有識者から報告等をいただきました。

当初は、100名の参加を想定していましたが、当日は、約140名の参加となり、満員の会場では熱心に耳を傾けメモをとる参加者が見られました。

また、会場の後方では、花粉問題対策事業者協議会（JAPOC）所属の企業による花粉症対策グッズの展示コーナーが設けられ、最新の空気清浄機や花粉対策眼鏡などが展示され、花粉に悩む参加者からの質問がなされていました。

今回の講演では、「大阪での花粉の発生は少ない。」という話もありましたが、周辺からの飛来する花粉を削減するうえでも、近畿中国森林管理局では、今後も、新たに植林をする際には、極力、花粉を飛ばさない、または、花粉の発生が少ない苗木を植えていくことなどに取り組んでいきます。



花粉症対策グッズの展示コーナー

札楽山国有林 分収造林地の伐採式に参加

【兵庫森林管理署】

たつの市^{ふたらくやま}札楽山国有林において、昭和25年3月に地元^{ひがしくりす}の東栗栖小学校開校50周年社会事業で当時の児童が植栽したスギ・ヒノキが伐期を迎え、令和元年11月27日（水）にたつの市長、東栗栖小学校、地元自治会等が出席し、伐採式が開催されました。



感謝状贈呈

その後、地元自治会長により伐採開始宣言が行われ、樹高20m、直径34cmのヒノキが大きな音を響かせて伐り倒されました。

伐採式には、当時、児童で下刈を体験された方も出席しており、立派に成長した木を見上げ感慨深く見守っていました。



たつの市長による刃入れ

伐採された木材は、地元木材木づかい事業の一環として、たつの市役所新庁舎の外壁材等として利用される予定です。

市町の林務担当者の事業地見学会を開催

【広島北部森林管理署】

広島北部森林管理署では、「森林経営管理制度」が始まったことを踏まえ、管内の各市町が進める各種施策の実現に向けた支援として、今年度から、管内市町の林務担当者を対象にした意見交換会に取り組んでいます。



作業道での説明

令和元年11月28日（木）に市町の林務担当者に直接、森林施業現場を見てもらう事業地見学会を行いました。見学会には、三次市、安芸高田市から5名の林務担当者^{おおづちやま}が参加し、大土山^{じでしらえ}国有林で実施した森林整備事業（地拵、植付、防護柵設置）の事業地と、安芸北森林組合（中川組合長）が安芸高田市内の民有林で実行中の列状間伐地を見学しました。

「シカ被害対策における新たな捕獲方法（小林式）に係る現地検討会」を開催

【鳥取森林管理署】

令和元年11月27日（水）、丹比^{たんび}地区公民館（八頭郡八東町北山）及び^{おおぎのせん}扇ノ仙国有林（八頭郡八頭町妻鹿野地内）において「シカ被害対策における新たな捕獲方法（小林式）に係る現地検討会」を開催しました。

この検討会は、鳥取県内のシカの生息数が増加し、県東部を中心に農林業被害が増加する中、設置が容易で、捕獲効率が高い新たな捕獲方法「小林式」を紹介するため開催したもので、県、市町及び森林組合の担当者や猟友会の会員など19名が参加しました。

まず、座学により「小林式」の概要を説明し、その後、扇ノ仙国有林において設置方法を実演しました。



ワナ設置実演

参加者からは、「仕掛ける場所の選択が容易で、初心者でも捕獲できそうだ」、「思ったより簡易に設置できるので、初心者でも扱えると思う」、「シカの習性をうまく利用しており、捕獲の推進が期待できるので使用してみたい」との感想がありました。

また、地元テレビ局や新聞社の取材もあり、検討会の様子が放送や記事として取り上げられました。鳥取森林管理署では、地域の要請を踏まえ、新たな捕獲方法「小林式」の普及に向け引き続き取り組むこととしています。

地域の方々とクリスマスリースづくり

【島根森林管理署】

令和元年12月6日（金）、島根森林管理署が所在する松江市の一般住民の方々を対象に、管内の森林から採取された木の葉、木の実、つる等を使った手作りのリースの作成を



リースづくり

通じて、森林の役割や木材に関心を持って頂くことを目的として、「クリスマスリースづくり」を実施しました。

当日は、21組26人が参加し、会場となった森林管理署の会議室の窓が曇るくらい熱気にあふれたリースづくりとなりました。



リースづくり終了後の記念撮影

早生樹（センダン）の育成について現地検討会を開催

【兵庫森林管理署】

伐採まで約40年以上かかるスギ・ヒノキ等の造林樹種と比べ、成長が早く約20年程度で収入が得られる、※コウヨウザンや※センダンなどの早生樹が近年注目されています。

令和元年11月28日（木）、宍粟市と共催し、^{しそ}荒廃農地でセンダンの育成に取り組んでいる早生樹活用研究会の協力を得て、「早生樹（センダン）の育成」の現地検討会を実施しました。

参加者は、兵庫県、自治体林務担当者、林業事業者等39名で、宍粟市産業部長のあいさつの後、マンガ谷国有林のセンダンの植栽試験地において、近畿中国森林管理局及び兵庫森林管理署から『管内各署で行われている早生樹の取組状況』等について説明を行いました。

次に会場を早生樹活用研究会の実証圃場^{ほじょう}に移し、同研究会から農耕放棄地対策の視点から農地法上の手続き等についての説明や兵庫県森林林業技術センターから県内植栽地の調査概要の説明がありました。



マンガ谷国有林
植栽試験地



早生樹活用研究会 実証圃場

兵庫森林管理署からは、実証圃場で試験的に行ったレーザー計測機による成長量調査の省力化の試みについて説明を行いました。

参加者は熱心に耳を傾け、「早生樹の育成に今後取り組みたい」との意見も多く出されました。またセンダンの特性として耐寒性に問題のあることから県内の温暖地（淡路島）での試験植栽やセンダン以外の早生樹の試験植栽を望む意見も出されました。

兵庫森林管理署では、今後も地域の林業の成長産業化に貢献する現地検討会を実施していくこととしています。

※ コウヨウザン：中国南部や台湾原産のヒノキ科の常緑針葉樹で、日本では江戸時代より前から寺社等に植樹され、樹高30m以上、胸高直径1m以上に達する。用途は、合板、建築材、内装材、家具材として利用。

※ センダン：本州伊豆半島以西に自生するセンダン科の落葉広葉樹。大きいものは樹高20m、胸高直径80cmに達する。公園等の緑化木や街路樹として植栽されており、材は家具材として利用。

森林共同施業団地の関係者による現地検討会を開催

【三重森林管理署】

令和元年11月20日（水）、三重県いなべ市（国有林・民有林）及び岐阜県海津市（民有林）の県境を跨いだ森林共同施業団地において、関係者30名（うち民有林関係者20名）が参加し、現地検討会を開催しました。

この検討会は、今年度の事業状況や来年度の事業予定を関係者で現地を確認し、今後のスムーズな事業実行を目的に、年1回行っているものです。事務局の三重森林管理署長の開会挨拶後、施業団地内の事業地において、それぞれ協定者の担当者等から説明があり意見交換等を行いました。

今回は、下記4箇所の現地確認を行いました。

1. 森林作業道新設（岐阜県海津市）
協定者：岐阜水源林整備事務所（民有林）
2. 搬出間伐（三重県いなべ市）
協定者：津水源林整備事務所（民有林）
3. 搬出間伐（岐阜県海津市）、中間土場
協定者：岐阜県森林公社（民有林）
4. 植栽、獣害対策（三重県いなべ市）
協定者：三重森林管理署（国有林）

大和三山風景林の美化活動を実施

【奈良森林管理事務所】

令和元年11月17日（日）、万葉集にも謳われ、古代の歴史舞台にもなった奈良県橿原市に所在する大和三山風景林（「日本美しの森 お薦め国有林」に選定）において、「大和三山美化活動」が開催され、当所からは所長と主任事務管理官が参加しました。

この美化活動は、大和三山の美しい風景や自然環境を次世代に継承するため、参加者や訪れた方に大和三山の魅力や気持ち良さを感じてもらふこと、また、未来に残したい大和三山の自然環境を守る意識の向上につなげることを目的に、橿原市や奈良県、学識経験者、地元連合自治会関係者らでつくる「大和三山風景林協議会」が主催し実施したもので今回で2回目となります。



作成したベンチ

当日は爽やかな秋晴れの下、橿原市民を中心に137名（スタッフ含む）の参加があり、耳成山、香具山、畝傍山に各班がそれぞれ分かれ、遊歩道周辺のごみ拾いを行いつつ山頂を目指し、また、山頂では、山麓から運搬したベンチ資材を組み立てて、三山の山頂にベンチを2基ずつ設置しました。

当所職員は畝傍山の遊歩道でごみ拾いを行いました。最近、利用者のマナーも向上しており、遊歩道沿いのごみはほとんどありませんでした。しかし、遊歩道から外れた目につきにくいところには、ごみが散乱している箇所もあり、美化活動の重要性を感じました。

今後、このような活動への参加者が増え、多くの利用者の目に触れることで、更なるマナーの向上につながることを期待しています。

当所では引き続き、協議会と連携・協力し、大和三山風景林の保全・整備に努めることとしています。

大和三山風景林

http://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/reku/rekumori/yamatosanzan.html



龍神村「林業まつり」に参加

【和歌山森林管理署】

令和元年11月23日（土）と24日（日）にかけて、田辺市龍神村の龍神市民センターで『林業まつり』が開催されました。

天気が危ぶまれていましたが両日とも雨は降らず、盛況のまま終わりました。



開催式のテープカット（テープの代わりに丸太カット）

林業まつりは、元々山で仕事をする人たちが集まってスポーツをするイベントでしたが、現在のような龍神村の主産業である林業を中心としたイベントとなったようです。

数年前から村民文化祭と同時開催になり、去年からは同じ会場になりました。

今年も、チェーンソーアートやボルダリング体験など様々なイベントが盛り沢山でした。

和歌山森林管理署のブースでは苔で小さな庭を作る「苔テラリウム」、木や木の实などを使って自由にいろんなものを作る「木工体験」を行いました。

参加者は苔だけでなく、小さな石や木の切れ端、ミニチュアなどでとても個性あふれる苔テラリウムを作っていました。



苔テラリウム作成

木工体験では 木の板をベースに、シンプルに絵を描いただけの参加者もいればサクラの枝を立てて立体的に作品を作った参加者もいて大人も子供も楽しんで作っていました。

和歌山森林管理署では、これからも林業の発展や地域に寄りそう国有林を目指していくべく各地のイベントなどに参加していきたいと思えます。



出来上がった苔テラリウム



「加計認定こども園あさひ」にて森林教室を開催

【広島森林管理署】

令和元年12月23日(月)「加計認定こども園あさひ」において、園児12名と保育士2名、広島森林管理署5名の計19名の参加により、森林教室を開催しました。

園長先生から、園児達に「自然の物を使った制作を楽しむ」、「身近にある森や木についての意味を知る」との要望があったことから、これらに沿った内容で実施し、紙芝居の後、自然の材料でクリスマスリース作りに励み園児たちは夢中で取り組んでいました。



リース作成中



紙芝居



出来上がったリースをもって記念撮影

お知らせ

【計画課】 詳細はホームページをご覧ください。

- 「令和元年度地域管理経営計画等に関する有識者懇談会」を開催予定
開催日時 令和2年2月19日(水)
- 地域管理経営計画書(案)及び国有林野施業実施計画書(案)並びに変更計画書(案)を公告縦覧中
- 国有林の地域別の森林計画」の公表中

【企画調整課】 詳細はホームページをご覧ください。

- 令和2年度「国有林モニター」の募集中

森林のギャラリー(局庁舎1階)

○ 展示内容・期間

- ・箕面森林ふれあい推進センターの取組紹介
- ・森と自然を活用した保育・幼児教育に関する事例紹介

1. 展示内容

○箕面ふれあい推進センターが実施している森林環境教育などの取組紹介

●森のようちえんや自治体等による森と自然を活用した保育・幼児教育の取組紹介

2. 展示期間

1月14日(火)～2月21日(金)

3. 開館時間

月曜から金曜日まで(土日、休日は除く)

9時00分～17時00分

【三重森林管理署】

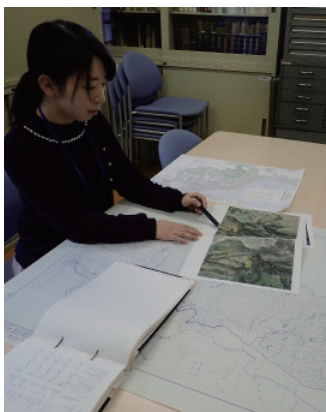
○大杉谷国有林からの手紙(43通目)を発行しました

～大杉谷に今も残る歴史的遺構を訪ねて～

http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/information/oosugitegami_043.html



我が署のスタッフ 滋賀森林管理署 松村 静 (まつむら しずか) (令和元年度採用)



【現在取り組んでいる仕事は？】

私は今年度新規採用の1年目で、業務グループに所属しています。現在は森林経営と資源活用を担当しており、主に森林経営では国有林と民地の境界を管理する仕事、資源活用では森林を調査し、必要があれば木を伐り、伐った木を販売する仕事をしています。どちらの仕事も書類や地図、データだけではわからないことが多々あるため、実際に現地に行くことも多いです。現地の業務では体力を使い大変なときもありますが、自分たちの行った仕事が将来にわたって残せるやりがいのある仕事です。

【職場の雰囲気は？】

優しい方が多く、業務についてもしっかりと教えていただける雰囲気の職場です。また、仕事だけでなくプライベートも大切にできる環境で働きやすい職場です。

【林野庁の魅力とは？】

事務官と技官の業務に違いがなく、様々な仕事に携われるところだと思います。森林整備等に関わることもあれば、治山事業等の土木に関わることも、総務や経理に関わることもあり、多様な経験ができます。また、OJTや研修も充実しており、様々なことに挑戦できるのも魅力の一つだと思います。

森林官等紹介

十津川・野迫川森林事務所 (奈良森林管理事務所) 森林官 春名 誠

十津川森林事務所は、奈良県南部の日本最大の村である十津川村に所在しています。近くには十津川村一番の観光スポットである「谷瀬の吊り橋（長さ297m、高さ54m）」があり、休日になると多くの観光客で賑わっています。

当事務所が管轄するのは、6団地で約3,900haの国有林と3団地で約200haの官行造林です。その多くは十津川村ではなく、隣の野迫川村に所在しています。野迫川村の桧股国有林では、平成25年度に「野迫川村桧股地区森林共同施業団地」を設定し、隣接する民有林と一体となった路網の整備や計画的な間伐の実施等に取り組んでいます。令和元年11月6日には、同国有林内の複数年契約による伐採と造林の一貫作業システムによる森林整備事業箇所において、コンテナ苗や効率的なシカ被害対策などの民有林への普及・定着に向けた現地検討会を開催し、奈良、三重、和歌山県内等の行政関係者や林業事業者など、総勢88名が参加しました。



また、野迫川村には世界遺産である熊野古道小辺路が国有林の近くを通っていることもあり、最近では外国人の登山客を見かけることが多くなっています。

このほか、荒神岳の山頂に鎮座する荒神社の麓にある国有林付近は、条件がそろえば季節に関係なく1年を通じて雲海が発生することから、地元では雲海の景勝地として有名です。

皆さんも機会がありましたら、是非、自然豊かな当部内にお越しください。運が良ければ雲海を見ることができるかもしれません。

シリーズ 『国有林 最前線!』

～「森の魅力や森林の大切さなど」を体感いただくイベントの実践～

森林整備部 箕面森林ふれあい推進センター

箕面森林ふれあい推進センターでは、地方公共団体や教育機関等の地域関係者等と連携し、^{みのお}箕面国有林（大阪府箕面市）をフィールドに、都市住民に対し、森林空間を利用した森林とのふれあいの場を提供しています。

今回は、これら取り組みの一環である「森林ふれあい推進事業」について御紹介いたします。

森林ふれあい推進事業とは、広く一般の方に森林に触れ合いながら「森の魅力や森林の大切さ」を体感いただくイベントを企画し、協定により実践いただくボランティア団体等を募集し、協定締結後、箕面森林ふれあい推進センターと共催で、国有林のフィールドを活用したイベントを行う業務です。

今年度は、NPO 法人^{さんろく}みのお山麓保全委員会と連携した「^{めいそう}みのお森のセラピー」やNPO クワガタ探検隊と連携した「カブトムシ里親まつり（^{しゅうくへん}飼育編・^{ほうちゅうへん}放虫編）」のイベントを実施しました。

5月19日（日）、10月20日（日）、11月10日（日）に実施した「みのお森のセラピー」では、公募により28名の方々に御参加いただき、「セラピーアシスター」と呼ばれるイベントガイドの案内の下、鳥の声や川のせせらぎを聞きながら、^{めいそう}国有林の中での瞑想体験、自然観察やハンモックに揺られ心地よい眠りの体験など、都会にはない「癒しの空間」を^{いや}満喫していただきました。

参加者からは、「森歩きの楽しみ方を学ぶことができた」、「森の空気、鳥の声、風の音を感じ、癒しの時間を過ごすことができた」などの感想をいただきました。

「カブトムシ里親まつり」は、7月7日（日）に「飼育編」、10月6日（日）に「放虫編」を実施しました。

「飼育編」では公募した15家族37名の方々に、自然観察を通じて、森林や動植物と人とのつながりや大切さを学んでいただきました。また、NPO クワガタ探検隊で飼育された雄雌の地元産のカブトムシの成虫を参加者に託し、それぞれの自宅で夏の間飼育を行っていただきました。「放虫編」では、各家族で飼育したカブトムシの幼虫を、箕面国有林に設置された昆虫ベッドに返す、飼育から放虫までの一連の体験を通して「命の尊さとのつながり」を考えるイベントを実施しました。

参加者には、両日を通じ、四季折々の自然や動植物の観察や生命の尊さなどを実感していただき、豊かな心を育む機会となりました。

参加いただいた方からは、「小さな子どもに自然とのふれあいの時間を作れて良かった」、「一連の飼育を通じて四季を感じたり、命の大切さを実感できた」、「今後もこのような貴重な活動を続けてください」などの感想をいただきました。

箕面森林ふれあい推進センターでは、今後も国有林のフィールドを活用し、体感・体験できるイベントを通じて、森林の大切さや魅力、自然と人とのつながりを感じていただけるイベントの開催に向けて取り組んでまいります。



森のセラピー
（ハンモック体験）



森のセラピー
（自然散策）



カブトムシ里親まつり
（飼育編）



カブトムシ里親まつり
（放虫編）